



平成30年2月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成30年1月15日

上場会社名 JMACS株式会社

上場取引所 東

コード番号 5817 URL <http://www.jmacs-j.co.jp>

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 植村剛嗣

問合せ先責任者 (役職名) 管理部長 (氏名) 佐藤栄一

TEL 06-4796-0020

四半期報告書提出予定日 平成30年1月15日

配当支払開始予定日 —

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無

四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 平成30年2月期第3四半期の連結業績(平成29年3月1日～平成29年11月30日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
30年2月期第3四半期	3,615	—	47	—	88	—	92	—
29年2月期第3四半期	—	—	—	—	—	—	—	—

(注)包括利益 30年2月期第3四半期 72百万円 (—%) 29年2月期第3四半期 1百万円 (—%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
30年2月期第3四半期	19.83	—
29年2月期第3四半期	—	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
30年2月期第3四半期	7,170	4,628	64.6
29年2月期	—	—	—

(参考)自己資本 30年2月期第3四半期 4,628百万円 29年2月期 1百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
29年2月期	—	0.00	—	10.00	10.00
30年2月期	—	0.00	—	—	—
30年2月期(予想)	—	—	—	15.00	15.00

(注)直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 平成30年2月期の連結業績予想(平成29年3月1日～平成30年2月28日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益	1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	円 銭
通期	4,890	—	56	—	109	—	84	18.10

(注)直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 有

※平成30年2月期第1四半期連結累計期間より四半期連結財務諸表を作成しているため、対前期及び対前年同四半期増減率については記載しておりません。

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無

② ①以外の会計方針の変更 : 無

③ 会計上の見積りの変更 : 無

④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)

30年2月期3Q	4,691,555 株	29年2月期	4,691,555 株
----------	-------------	--------	-------------

② 期末自己株式数

30年2月期3Q	24,604 株	29年2月期	31,838 株
----------	----------	--------	----------

③ 期中平均株式数(四半期累計)

30年2月期3Q	4,662,592 株	29年2月期3Q	4,659,717 株
----------	-------------	----------	-------------

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、四半期連結財務諸表に対する四半期レビュー手続が実施中です。

※四半期決算短信は四半期レビューの対象外です

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

平成30年2月期第1四半期連結累計期間より、上海皆碼嗣电气有限公司とHONG KONG JMACE LIMITED.の海外子会社2社の重要性が増したため、同社を連結の範囲に含め連結決算に移行しました。

また、本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、四半期決算短信(添付資料)2ページ「連結業績予想などの将来予想情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	2
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	5
四半期連結損益計算書	
第3四半期連結累計期間	5
四半期連結包括利益計算書	
第3四半期連結累計期間	6
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	7
(継続企業の前提に関する注記)	7
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	7
(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)	7
(会計方針の変更)	7
(追加情報)	7
(セグメント情報等)	8

1. 当四半期決算に関する定性的情報

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において当社グループ(当社及び連結子会社)が判断したものであります。

当社グループは第1四半期連結会計期間より四半期連結財務諸表を作成しているため、前年同四半期の数値及びこれに係る対前年同四半期増減率並びに前事業年度の数値との比較分析は行っておりません。

(1) 経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間におけるわが国経済は、企業収益の回復や雇用環境の改善等、個人消費の持ち直しの動きが広がり、景気は緩やかな回復基調で推移しました。

一方、海外経済は、米国の保護主義的な各種政策の実施、中国の景気減速、北朝鮮情勢の緊迫化等のリスク要因により、依然として不安定な状況にあります。

電線業界におきましては、オリンピックを控えたインフラ建設等の需要が盛り上がり、首都圏の再開発案件の増加が見込まれる中、銅電線の主要な需要部門である建設・電販部門は、前年を上回り、堅調に推移しております。

このような状況のもと、当社グループといたしましては、経営方針として、1. 攻撃こそ最大の防御である。(攻めの経営) 2. 世のため人のための事業を行う。3. スピードと技術、素早い対応という伝統を死守。を掲げ、国内外に向けた販路開拓や、顧客のニーズに応える高付加価値製品の開発等、収益性の改善や顧客満足度の向上に向けた事業活動を積極的にしてまいりました。

この結果、当第3四半期連結累計期間の売上高は3,615,273千円、営業利益47,522千円、経常利益88,448千円、親会社株主に帰属する四半期純利益92,462千円となりました。

セグメントの業績は次のとおりであります。

なお、第1四半期連結会計期間より四半期連結財務諸表を作成したことに伴い、報告セグメントとして「海外事業」を新たに追加し、報告セグメントを従来の「電線事業」と「トータルソリューション事業」の2区分から、「海外事業」を含めた3区分としております。

<電線事業>

電線事業につきましては、景気が回復基調にある中、全体的に受注が安定的に確保出来たこと、その中でも大型案件の受注の獲得や高付加価値製品の販売の割合が大きかったことにより、売上高は3,550,712千円、セグメント利益は214,572千円となりました。

<トータルソリューション事業>

トータルソリューション事業につきましては、スマートグラスや各種センサーシステムの受注が増加し、売上高は61,137千円となりましたが、開発費や販売促進活動によるコスト増加により、セグメント損失は134,531千円となりました。

<海外事業>

海外事業につきましては、引き続き人員の確保と管理体制の強化を進め、販路開拓に向けての積極的な事業活動を展開してまいりました。

その結果、売上高は3,422千円、セグメント損失は32,518千円となりました。

(2) 財政状態に関する説明

(資産の部)

当第3四半期連結会計期間末の総資産残高は7,170,080千円となりました。

流動資産は、3,066,463千円となりました。その主な内訳は現金及び預金413,472千円、受取手形及び売掛金1,730,508千円、商品及び製品321,466千円、原材料及び貯蔵品292,238千円等です。

固定資産は、4,103,617千円となりました。その主な内訳は建物及び構築物1,082,797千円、機械装置及び運搬具176,014千円、土地1,045,837千円、投資不動産1,584,324千円等です。

(負債の部)

当第3四半期連結会計期間末の負債残高は2,541,651千円となりました。

流動負債は、1,567,945千円となりました。その主な内訳は支払手形及び買掛金1,017,016千円、短期借入金300,000千円等です。

固定負債は、973,706千円となりました。その主な内訳は長期借入金690,625千円、退職給付に係る負債104,483千円、役員退職慰労引当金147,616千円等です。

(純資産の部)

当第3四半期連結会計期間末の純資産残高は4,628,429千円となりました。その主な内訳は資本金647,785千円、資本剰余金644,092千円、利益剰余金3,303,670千円等です。

この結果自己資本比率は64.6%となりました。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

平成30年2月期の連結業績予想につきましては、平成30年1月15日公表の「平成30年2月期通期連結・個別業績予想の修正に関するお知らせ」をご覧ください。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

当第3四半期連結会計期間
(平成29年11月30日)

資産の部	
流動資産	
現金及び預金	413,472
受取手形及び売掛金	1,730,508
電子記録債権	162,058
商品及び製品	321,466
仕掛品	104,774
原材料及び貯蔵品	292,238
その他	43,202
貸倒引当金	△1,255
流動資産合計	3,066,463
固定資産	
有形固定資産	
建物及び構築物（純額）	1,082,797
機械装置及び運搬具（純額）	176,014
工具、器具及び備品（純額）	23,111
土地	1,045,837
建設仮勘定	6,361
有形固定資産合計	2,334,122
無形固定資産	
投資その他の資産	
投資不動産（純額）	1,584,324
その他	175,385
投資その他の資産合計	1,759,710
固定資産合計	4,103,617
資産合計	7,170,080
負債の部	
流動負債	
支払手形及び買掛金	1,017,016
短期借入金	300,000
1年内返済予定の長期借入金	42,500
未払金	84,416
未払法人税等	26,188
未払消費税等	4,934
賞与引当金	65,610
その他	27,278
流動負債合計	1,567,945
固定負債	
長期借入金	690,625
退職給付に係る負債	104,483
役員退職慰労引当金	147,616
その他	30,981
固定負債合計	973,706
負債合計	2,541,651
純資産の部	
株主資本	
資本金	647,785
資本剰余金	644,092
利益剰余金	3,303,670
自己株式	△11,783
株主資本合計	4,583,764
その他の包括利益累計額	
その他有価証券評価差額金	47,033
為替換算調整勘定	△2,368
その他の包括利益累計額合計	44,665
純資産合計	4,628,429
負債純資産合計	7,170,080

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

(四半期連結損益計算書)

(第3四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	当第3四半期連結累計期間 (自平成29年3月1日 至平成29年11月30日)
売上高	3,615,273
売上原価	2,755,553
売上総利益	859,719
販売費及び一般管理費	812,197
営業利益	47,522
営業外収益	
受取賃貸料	50,638
その他	4,289
営業外収益合計	54,927
営業外費用	
支払利息	6,022
賃貸収入原価	6,939
その他	1,038
営業外費用合計	14,000
経常利益	88,448
特別利益	
投資有価証券売却益	56,683
特別利益合計	56,683
税金等調整前四半期純利益	145,131
法人税、住民税及び事業税	24,872
法人税等調整額	27,796
法人税等合計	52,669
四半期純利益	92,462
親会社株主に帰属する四半期純利益	92,462

(四半期連結包括利益計算書)

(第3四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	当第3四半期連結累計期間 (自平成29年3月1日 至平成29年11月30日)
四半期純利益	92,462
その他の包括利益	
その他有価証券評価差額金	△17,583
為替換算調整勘定	△2,368
その他の包括利益合計	△19,952
四半期包括利益	72,510
(内訳)	
親会社株主に係る四半期包括利益	72,510

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)

該当事項はありません。

(会計方針の変更)

該当事項はありません。

(追加情報)

(四半期連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項)

当社グループは、第1四半期連結会計期間より四半期連結財務諸表を作成しております。四半期連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項は以下のとおりです。

1. 連結の範囲に関する事項

(1) 連結子会社の数及び連結子会社の名称

- | | |
|------------|---|
| ① 連結子会社の数 | 2社 |
| ② 連結子会社の名称 | 上海皆碼嗣電気有限公司
HONG KONG JMACS LIMITED. |

(2) 非連結子会社の数及び非連結子会社の名称

- | | |
|-------------|------------|
| ① 非連結子会社の数 | 1社 |
| ② 非連結子会社の名称 | 上海日芦貿易有限公司 |

(連結の範囲から除いた理由)

非連結子会社は清算を完了し、売上高、当期純損益等は、いずれも連結財務諸表に重要な影響を及ぼしていないためであります。

2. 連結子会社の四半期決算日等に関する事項

連結子会社の四半期決算日が四半期連結決算日と異なる会社は次のとおりであります。

会社名	四半期決算日
上海皆碼嗣電気有限公司	平成29年9月30日
HONG KONG JMACS LIMITED.	平成29年9月30日

(注) 四半期連結財務諸表の作成に当たっては、連結子会社の四半期決算日現在の財務諸表を使用しております。

ただし、四半期連結決算日との間に生じた重要な取引については、連結上必要な調整を行っております。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

当第3四半期連結累計期間(自平成29年3月1日至平成29年11月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント				調整額	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)
	電線事業	トータルソ リューション 事業	海外事業	合計		
売上高						
外部顧客への売上高	3,550,712	61,137	3,422	3,615,273	—	3,615,273
セグメント間の内部売上高 又は振替高	618	3,215	993	4,827	△4,827	—
計	3,551,330	64,352	4,416	3,620,100	△4,827	3,615,273
セグメント利益又は損失 (△)	214,572	△134,531	△32,518	47,522	—	47,522

(注) セグメント利益又は損失の合計は、四半期連結損益計算書の営業利益と一致しております。

2. 報告セグメントの変更等に関する事項

「1. 当四半期決算に関する定性的情報(1)経営成績に関する説明」に記載のとおり、上海皆碼嗣電気有限公司とHONG KONG JMACS LIMITED. を連結の範囲に含めたことに伴い、報告セグメントとして「海外事業」を新たに追加しております。